

Amazon Kindle パブリッシングガイド (Appendix) 日本語サポート

この文書は、Amazon Kindle パブリッシングガイドの補足資料として、日本語サポートについてまとめたものである。

1. Kindle Format の特徴

1.1. 文字セット

Kindle デバイ스에 標準搭載する日本語フォントは、明朝体とゴシック体の 2 書体、それぞれ標準と太字の 2 ウェイトで、JIS X 0213:2004 の文字セットをサポートする。Kindle リーダーアプリケーションでは、日本語文字セットの範囲は OS に依存するが、JIS X 0213:2004 がサポートされていることを想定する。Android OS 用の Kindle リーダーアプリケーションでは、追加フォントにより Kindle デバイスと同様に JIS X 0213:2004 の文字セットをサポートする予定である。

1.2. ページマージン

リフロー型コンテンツでは、Kindle デバイスおよび Kindle リーダーアプリケーションのリーディングシステムで、表示上の既定ページマージンを設定し、ユーザー自身による変更が可能になっている。

1.3. 文字間隔

文字間隔（字送り）は、原則として、ベタ組（文字間隔 0）で表示する。
ルビ処理、禁則処理にともない、文字間隔が自動的に調整される。

1.4. 禁則処理

line-break、word-break 等の CSS の指定に関わらず、以下の禁則処理を行なう。

- ・句読点は、ぶら下げ組で処理する。
- ・その他、括弧類、グループルビ、分離禁止文字等は、追い出し処理する。

1.5. 行頭のインデント

横書き時には p 要素に自動的に 1 文字分（1em）のインデントが行なわれる。

行頭インデントを制御する場合には、まず

```
body, div, p { text-indent:0; }
```

を指定した後に、要素セレクタでの指定、クラスセレクタでの指定、全角空白の挿入等で制御する。

1.6. 画像について

現状の Kindle Format で使用可能な画像形式は、GIF、BMP、JPEG、PNG、SVG である。

透過させる場合には 8bit の透過 PNG のみ使用可能。それ以上の色数を使った PNG では透過されず透過部分は背景が白の画像として扱われる。

2. メタデータ (OPF ファイル) の記述

Amazon Kindle 向けのコンテンツは、EPUB ファイルから、KindleGen を使って Kindle Format に変換される。（パブリッシングガイド参照）

メタデータは、EPUB の OPF ファイル仕様に従って記述する。

2.1. 基本構造

【サンプル】

```
<?xml version="1.0"?>
<package xmlns="http://www.idpf.org/2007/opf" unique-identifier="pub-id" version="3.0" xml:lang="ja" >
  <metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">
    <dc:title>京都日記</dc:title>
    <dc:creator id="creator">芥川龍之介</dc:creator>
    <meta refines="#creator" property="role" scheme="marc:relators" id="role">aut</meta>
    <dc:publisher>〇〇出版</dc:publisher>
    <dc:language>ja</dc:language>
    <dc:identifier id="pub-id">urn:uuid:D55B13C0-43A8-461C-AB29-E11435E889DB</dc:identifier>
    <meta property="dcterms:modified">2012-04-01T08:30:00Z</meta>
    <meta name="cover" content="my-cover-page" />
  </metadata>
  <manifest>
    <item id="ncx" href="toc.ncx" media-type="application/x-dtbnx+xml" />
    <item id="XHTML001" href="text/kf_jp_sample_0001.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
    <item id="XHTML002" href="text/kf_jp_sample_0002.xhtml" media-type="application/xhtml+xml" />
    .....
    <item id="my-cover-image" href="images/cover.jpg" media-type="image/jpeg" />
    <item id="basestyle" href="styles/kf_style.css" media-type="text/css" />
  </manifest>
  <spine page-progression-direction="rtl" toc="ncx">
    <itemref idref="XHTML001" />
    <itemref idref="XHTML002" />
    .....
  </spine>
</package>
```

言語として日本語を指定する。（日本語の場合は ja 固定）

```
<dc:language>ja</dc:language>
```

Kindle Format では、カバー画像は必須である。

カバー画像は、metadata meta 要素と manifest item 要素で定義する。

metadata name="cover" の content の値と manifest item id の値は同じにしなければならない。

これは、EPUB3 での定義方法と異なるので注意のこと。（詳細はパブリッシングガイド参照）

【例】

```
<metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">
  <meta name="cover" content="my-cover-image" />
</metadata>
<manifest>
  <item id="my-cover-image" href="images/cover.jpg" media-type="image/jpeg" />
</manifest>
```

2.2. 綴じ方向の指定

書籍の綴じ方向（右綴じ／左綴じ）の指定は、メタデータの spine page-progression-direction 要素（EPUB3 準拠）または metadata meta 要素に primary-writing-mode（Kindle 専用）で指定する。両方指定した場合には primary-writing-mode が有効になる。

primary-writing-mode

"primary-writing-mode"は下記のようにメタタグ（<metadata>の子要素）で指定する。

```
<meta name="primary-writing-mode" content="vertical-rl"/>
```

指定による効果は下表のとおり。

値	左からスワイプ（左側タップ）	右からスワイプ（右側タップ）
horizontal-tb	前ページに移動	次ページに移動
vertical-rl	次ページに移動	前ページに移動

page-progression-direction

"page-progression-direction"は EPUB 仕様に準拠して"spine"要素で指定する。

```
<spine page-progression-direction="rtl">…</spine>
```

指定による効果は下表のとおり。

値	左からスワイプ（左側タップ）	右からスワイプ（右側タップ）
ltr	前ページに移動	次ページに移動
rtl	次ページに移動	前ページに移動

3. 基本版面

基本版面の設定は、各 XHTML ファイルの body へのスタイルで設定する。

body 要素に指定された color、background-color は無視され、リーディングシステムのデフォルトおよびユーザーの設定で変更される。

表紙、目次、本文、奥付で、別指定にしたい場合には、XHTML ファイルを分割の上、それぞれの body に設定する。

【例】

```
body.body_text {  
  font-family: serif;  
  -webkit-writing-mode: vertical-rl;  
  line-height: 1.75;  
  text-align: justify;  
}
```

3.1. 組方向

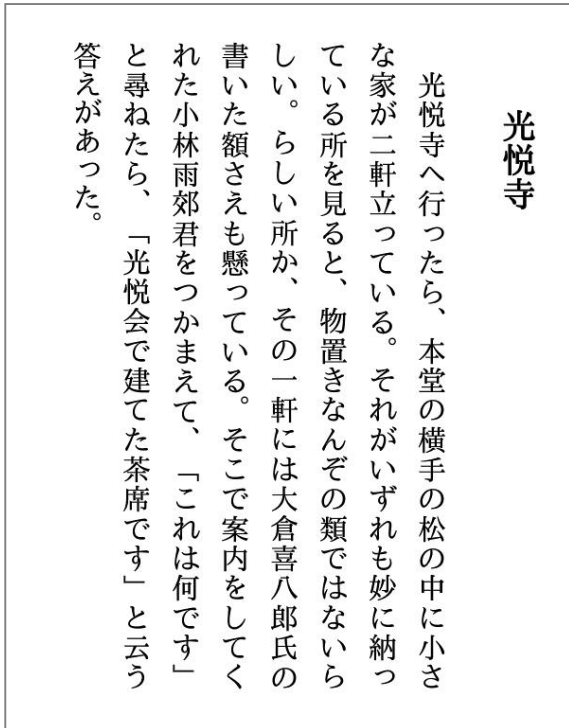
縦書き／横書きの組方向の指定には、CSS プロパティ"-webkit-writing-mode"を使用する。

【例】

```
body.body_text {  
  -webkit-writing-mode: vertical-rl;  
}  
  
<body>  
<h2 class="chapter">光悦寺</h2>  
<p>  
  光悦寺へ行ったら、本堂の横手の松の中に小さな家が二軒立っている。それがいずれも妙に納っている所を見ると、物置きなんぞ  
  の類ではないらしい。 ...  
</p>  
...  
</body>
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【画面イメージ】



3.2. 文字の表示方向

全角文字の表示方向は、Kindleのリーディングシステムで行なわれ、CSSでの指定を使って変更することはできない。日本語の全角文字は、以下を除き、原則として、縦書き／横書きともに、直立して表示する。

- ・全角の括弧類は、右90度回転させて表示する。
- ・句読点は、横書き時には左下、縦書き時には右上に配置して表示する。
- ・音引き、波ダッシュは、右90度回転させた上で左右反転して表示する。

その他、約物は、横書き／縦書きで表示が異なる場合がある。

欧文半角文字は、組方向が縦書きの場合、右90度回転して表示される（縦中横については「5.9. 縦中横」参照）。

3.3. ページマージン

ページ（ここでは、リフローによって自動的にページネートされたページを指す）マージンについて、リフロー型コンテンツでは、リーディングシステムで表示上の既定ページマージンを設定し、また、ユーザーが好みにあわせて変更することができるため、コンテンツ側でページマージンを設定しないことを推奨する。

3.4. 書体指定

書体指定は、

- ・基本版面での指定（例 `body.body_text { font-family: serif; }`）
- ・見出しや段落での指定（例 `h1.chapter { font-family:sans-serif; }`）
- ・文字列への指定（例 `span.gothic { font-family:sans-serif; }`）

の3つの方法で行うことができるが、基本版面への指定は `body` へのスタイルの適用で行う。

【例】

```
body.body_text {
  font-family: serif;
}
```

CSS プロパティ "font-family" には、フォント名を指定する。

コンテンツ制作者が、独自の埋め込みフォントを使用するためには、CSS プロパティ "@font-face" を使用する。

デバイスに無いフォントが指定された場合には無効となるので、明朝系フォントの指定であれば、"serif"、ゴシック系フォントの指定であれば、"sans-serif" を必ず最後に指定すること。

書体は、ユーザーが変更することができる。

値に !important をつけることでユーザーに変更させないことも可能だが、通常は、見出しや文字列へのゴシック (sans-serif) 指定をのぞき、推奨しない。

3.5. 背景指定

body 要素への CSS プロパティ "background-color" の指定は無視される。

div、span 要素への "background-color" の指定は有効であるが、

背景色の指定にあたっては、グレースケール電子インク表示方式の Kindle 電子書籍デバイスでの可読性を考慮し、指定しないことが望ましい。背景画像の指定は表示結果が保証されないため推奨しない。

3.6. 字下げとインデント

目次や奥付ページのように、本文の基本版面とは字下げやインデントの指定を変更したい場合には、body へのスタイル指定ではなく、見出し (h1~h6)、段落 (div, p 等のブロック要素) に対して字下げ (padding-top)、インデント (text-indent) を指定することを推奨する。

3.7. 行送り (行間、行高)

行送り (行間、行高) の調整には、CSS プロパティ "line-height" (行高) を使用し、相対値で指定する。単位を省略した場合には、em として扱う。指定を行わない場合には、1.75em として扱われる。指定する場合は、日本語書籍の場合には、ルビも考慮し、1.5 以上 (~2.0 程度) の値を推奨する。

```
body.body_text {
  line-height: 1.75;
}
```

"1.75" とした場合には、行高から 1 を引くと行間になるので、行間は 0.75 (75%) となる。

3.8. 行揃え

基本版面としての行揃えは、body へのスタイルの指定によって行う。

省略時のデフォルトの値は "justify"。

```
body.body_text {
  text-align:justify;
}
```

奥付などを横書き、中揃えにしたい場合には、以下のようなスタイルを指定する。

```
body.body_text {
  -webkit-writing-mode:horizontal-tb;
  text-align:center;
}
```

値	横組み時	縦組み時
left	左寄せ	上寄せ
center	左右中央寄せ	上下中央寄せ
right	右寄せ	下寄せ
justify	均等割付	

4. 見出しと段落の指定

見出しや段落の字下げ、インデント、前後の間隔の調整は、CSS プロパティ "margin*", "padding*", "text-indent" を使用する。ほとんどの場合、"margin*", "padding*" は同じように動作するが、以下が異なる。

それぞれが指定されたブロックが隣り合った場合に、"margin*" (間隔) ではその値が加算されるが、"padding*" (余白) では重なりあう。枠線 ("border") を使用する場合には、"margin*" の場合には内側、"padding*" の場合には外側に枠線が引かれる。

見出し、段落にも基本版面と同様、CSS プロパティ "font-family" で書体を指定することが可能である。

4.1. 段落の間隔、余白

見出し、段落の前後の間隔、余白の調整は、以下の指定で行なう。

	縦組みの場合	横組みの場合
見出し、段落前の間隔	margin-right	margin-top
見出し、段落前の余白	padding-right	padding-top
見出し、段落後の間隔	margin-left	margin-bottom
見出し、段落後の余白	padding-left	padding-bottom

見出し、段落の行頭の字下げの調整は、以下の指定で行なう。

	縦組みの場合	横組みの場合
見出し、段落の字下げ	padding-top	padding-left

【見出しの指定例 1】

スタイル

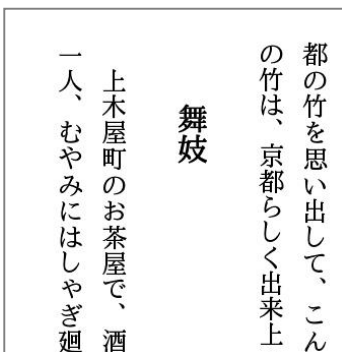
```
h2.chapter {  
  font-size:120%;  
  font-weight:bold;  
  padding-top:2em; /* 2文字の字下げ */  
  margin-right:1em; /* 見出しの前に1行分の空き */  
  margin-left:1em; /* 見出しの後に1行分の空き */  
}
```

HTML

```
<p>...出来上っているのである。</p>  
<h2 class="chapter">舞妓</h2>  
<p> 上木屋町のお茶屋で、酒を飲んでいたら、...</p>
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【サンプル画面イメージ】



【見出しの指定例 2】

見出しの装飾に枠線を使用する場合、以下のように指定する。

スタイル

```
h2.border_chapter {  
  font-family: sans-serif !important;  
  font-size:120%;  
  font-weight:bold;  
  padding-top:1em;  
  margin-right:1em;  
  margin-left:1em;  
  border-top-style:solid;  
  border-top-color:#0000ff;  
  border-top-width:6px;  
}
```


HTML

```
<h2 class="border_chapter">日本語各種表現方法</h2>
```

【サンプル画面イメージ】



引用等の表現のため、段落を野で囲む場合には、以下のような指定を行なう。

【例】

スタイル

```
div.quote_box {  
  margin-right:1em;  
  padding:1em;  
  border:1px solid #cccccc;  
}
```

HTML

```
<div class="quote_box">
```

```
<p>
```

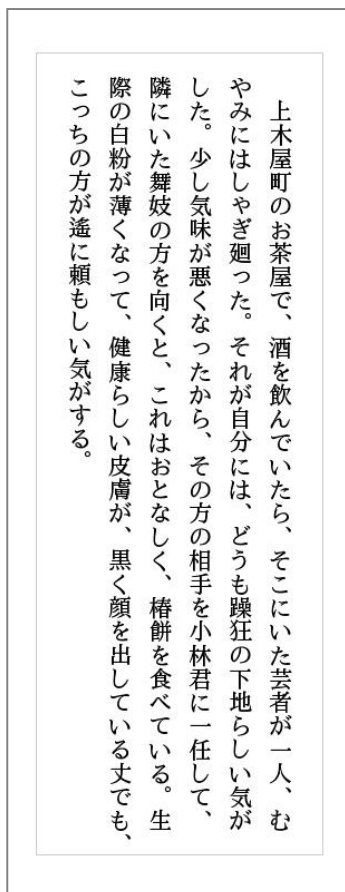
上木屋町のお茶屋で、酒を飲んでいたら、そこにいた芸者が一人、むやみにはしゃぎ廻った。それが自分には、どうも躁狂の下地らしい気がした。少し気味が悪くなったから、その方の相手を小林君に一任して、隣にいた舞妓の方を向くと、これはおとなしく、椿餅を食べている。生際の白粉が薄くなって、健康らしい皮膚が、黒く顔を出している丈でも、こっちの方が遙に頼もしい気がする。

```
</p>
```

```
</div>
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【サンプル画面イメージ】



4.2. インデント指定

見出しや段落のインデント指定は、CSS プロパティ "text-indent" を使用する。

"text-indent" にマイナスの値を指定した場合（突き出しインデント）には、ページからはみだしてしまうので、必ず同数以上の値を "padding-top"（縦組み時）または "padding-left"（横組み時）に加えること。

【見出しの指定例 2】

スタイル

```
h1.subtitle {  
  font-size: 120%;  
  font-weight: bold;  
  padding-top: 6em;  
  text-indent: -4em;  
  line-height: 1.5;  
}
```

HTML

```
<h1 class="subtitle">第五章 日本語固有の各種表現について</h1>
```

【サンプル画面イメージ】



【字下げとインデントの例 1】

スタイル

```
.start_4em {  
  padding-top:4em;  
  padding-right:1em;  
  padding-left:1em;  
}  
  
.indent_1em {  
  padding-top:1em;  
  text-indent:-1em;  
}
```

HTML

```
<p class="start_4em">マリウスが二体の肉体労働型ロボットを連れて再び登場。</p><p class="indent_1em">  
<span style="font-family:sans-serif; font-weight:bold;">ドミン</span>  
ご覧ください。小型のトラクターと同等の力があります。並みの頭脳も保証されています。よし結構だ、マリウス。  
</p>
```

(カレル・チャペック「RUR」より)

【サンプル画面イメージ】

マリウスが二体の肉体労働型ロボットを連れて再び登場。

ドミン ご覧ください。小型のトラクターと同等の力があります。並みの頭脳も保証されています。よし結構だ、マリウス。

(出典：カレル・チャペック「RUR」)

【インデントの例 2】

スタイル

```
.indent_6em {  
  padding-top:6em;  
  text-indent:-6em;  
}
```

HTML

```
<div class="indent_6em">  
<p>一八九九年 吉祥寺駅が開業する。</p>  
<p>一九二八年 武蔵野村が町制施行し、東京府北多摩郡武蔵野町大字吉祥寺となる。</p>  
<p>一九四七年 武蔵野町が市制施行し、東京都武蔵野市大字吉祥寺となる。</p>  
</div>
```

【サンプル画面イメージ】

一八九九年	吉祥寺駅が開業する。
一九二八年	武蔵野村が町制施行し、東京府北多摩郡武蔵野町大字吉祥寺となる。
一九四七年	武蔵野町が市制施行し、東京都武蔵野市大字吉祥寺となる。

4.3. 文字間隔

KindleFormat では、文字間隔（字送り）は、原則として、ベタ組（文字間隔 0）で表示する。
部分的に文字間隔を空けたい場合には、CSS プロパティ "letter-spacing" を使用する。

【文字間隔を空ける例】

スタイル

```
h2.letterspace {  
  font-family: serif;  
  font-size:120%;  
  font-weight:bold;  
  letter-spacing:1em;  
  padding-top:2em;  
  margin-right:1em;  
  margin-left:1em;  
}
```

HTML

```
<h2 class="letterspace">あとがき</h2>
```

【サンプル画面イメージ】

あ
と
が
き

4.4. 行揃えの指定

行揃えには CSS プロパティ "text-align" を使用する。

値	横組み時	縦組み時
left	左寄せ	上寄せ
center	左右中央寄せ	上下中央寄せ
right	右寄せ	下寄せ
justify	均等割付	

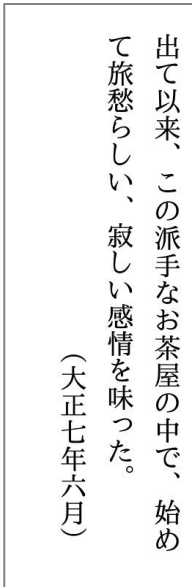
スタイル

```
p.right {  
  text-align:right;  
}
```

HTML

```
<p>  
...寂しい感情を味った。  
</p>  
<p class="right"> (大正七年六月) </p>
```

【サンプル画面イメージ】



5. 文字に関する指定

5.1. 書体指定

基本版面や、見出し、段落と同様、文字列に対しても、CSS プロパティ "font-family" で書体を指定することが可能であるが、ユーザーの選択に関わらず、指定した書体を有効にするためには、!important をつける必要がある
推奨する設定方法

- ・ body に対しては、!important はつけない
- ・ 見出し、段落、文字列に対して、body と同じ書体を指定する場合には、!important はつけない
- ・ 見出し、段落、文字列に対して、body と異なる書体を指定する場合には、!important をつける

【例】

スタイル

```
.role {  
  font-family:sans-serif !important;  
  font-weight:bold;  
}
```

HTML

```
<span class="role">ドミン</span> ご覧ください。
```

【サンプル画面イメージ】

ド
ミ
ン
ご
覧
く
だ
さ
い。

5.2. 文字サイズ指定

Kindle デバイスおよび Kindle リーダーアプリケーションでは、ユーザーが表示するリフロー型コンテンツの文字サイズを変更することができる。

そのためコンテンツ制作者がリフロー型コンテンツで文字サイズを指定する場合には、CSS プロパティ"font-size"を使い、絶対値 (pt, pixels) ではなく相対値 (% , em, small/medium/large) で指定する必要がある。

【例】

スタイル

```
.large {  
  font-size: large;  
}  
.small {  
  font-size: small;  
}  
.size120per {  
  font-size: 120%;  
}
```

HTML

```
<span class="large">大きく</span> <span class="small">小さく</span> <span  
class="size120per">一二〇%</span>
```

【サンプル画面イメージ】

大
き
く

小
さ
く

一
二
〇
%

5.3. 文字色

文字色の指定には、CSS プロパティ"color"を使用する。

文字色の指定に当たっては、グレースケール電子インク表示方式の Kindle 電子書籍デバイスでの可読性を考慮すること。

5.4. 画像による外字

Kindle デバイスおよび Kindle リーダーアプリケーション環境の日本語フォントにおいてサポートしていない文字を、やむをえず使用する必要がある場合には、インライン画像（画像外字）方式を推奨する。

画像による外字には、文字色の指定、装飾（傍線、圏点）の指定を行なうことができない。

外字用の画像ファイルの要件

画像フォーマット：PNG（8bit）形式または JPEG 形式（8bit の透過 PNG を推奨）

サイズ：128 x 128 ピクセル以上を推奨

指定方法

【例】

スタイル

```
.gaiji {  
  width:1em;  
  height:1em;  
  display:inline;  
}
```

HTML

```
内田百（「聞」は通常の文字としても記述可能）
```

（「聞」は通常の文字としても記述可能）

【サンプル画面イメージ】

内田百聞（「聞」は通常の文字としても記述可能）

5.5. ルビ

Kindle のリーディングシステムでは、ルビの文字は、縦書きでは本文の右側に表示し、横書きでは上側に表示する。

ルビは、組方向に対して親文字の中央揃えとなる（中付き）。

ルビの文字は、規定では親文字の半分の大きさで表示される（二分付き）。

ルビの指定方法：

親文字列は、ruby 要素で指定する。

ルビ文字列は、rt 要素を指定する。

行間がせまい場合には、ルビと行が重ならないように、行間は自動調整される。

ルビに対応していないビューアでの括弧での表示のため、rp 要素を使用してもよい。

モノルビ：親文字 1 文字に対して、ルビをふる。

【例】

```
<ruby>星<rt>ほし</rt></ruby>
```

熟語に対するルビは、親文字 1 文字に対してルビをふる方法と、グループルビによる方法がある。

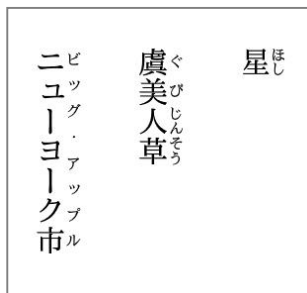
【親文字 1 文字に対してルビをふる例】

```
<ruby>虞<rt>ぐ</rt>美<rt>び</rt>人<rt>じん</rt>草<rt>そう</rt></ruby>
```

【グループルビの例】

```
<ruby>ニューヨーク市<rt>ビッグ・アップル</rt></ruby>
```

【サンプル画面イメージ】



グループルビの文字列が長過ぎる場合には、表示しきれない可能性があるため、以下のような場合には、適宜分割するのが望ましい。

【表示できない可能性があるグループルビの例】

カリエの「<ruby>憑着及殺人自殺の衝動の研究<rt>コントリビュション・ア・レチュード・デ・ゾプセッション・エ・デ・ザムブルシオン・ア・ロミシイド・エ・オー・スイシイド</rt></ruby>」、クラフト・エーヴィングの「<ruby>裁判精神病学教科書<rt>ルールブッフ・デル・ユリスティッシェン・プシヒョパトロギイ</rt></ruby>」、ボーデンの「<ruby>道徳的癡患の心理<rt>ディ・プシヒョロギイ・デル・モラリッシェ・イディオチイ</rt></ruby>」等の犯罪学書。

(小栗虫太郎「黒死館殺人事件」より)

5.6. 圏点、傍点

強調を表すために文字に圏点を付することができる。

圏点の表示にはCSSスタイル"-webkit-text-emphasis-style"を用いてスタイルを指定する。

圏点は、縦書きでは親文字の右側に表示され、横書きでは親文字の上側に表示される。

圏点が表示されない文字もある（句読点、括弧、画像による外字等）。

ルビと圏点、傍点を同時に指定した場合にはルビが優先され、圏点、傍点の指定は無効になる。

【例】

スタイル

```
.em_accent {
  -webkit-text-emphasis-style: filled sesame;
}
.em_dot {
  -webkit-text-emphasis-style: filled double-circle;
}
.em_circle {
  -webkit-text-emphasis-style: open dot;
}
.em_disc {
  -webkit-text-emphasis-style: filled dot;
}
.em_triangle {
  -webkit-text-emphasis-style: filled triangle;
}
```

HTML

```
<span class="em_accent">黒ごま傍点</span>、<span class="em_dot">蛇の目</span>、<span
class="em_circle">白丸</span>、<span class="em_disc">黒丸</span>、<span class="em_triangle">三角</span>
```

【サンプル画面イメージ】



5.7. 下線、傍線

下線、傍線は CSS プロパティ "text-decoration" で指定する。

傍線は、縦組み時には日本語文字列の右側に、欧文文字列の左側に表示されることが期待される。

しかし、現在の EPUB3 の仕様では、CSS プロパティ "text-decoration" の縦書き時の動作は、

- underline : 左側
- overline : 右側

である。

そこで、縦組み時に、日本語文字列に傍線を引く場合には、"overline" を、欧文文字列に対しては、"underline" を指定する。

【例】

スタイル

```
.underline {
  text-decoration:underline;
}
.overline {
  text-decoration:overline;
}
```

HTML

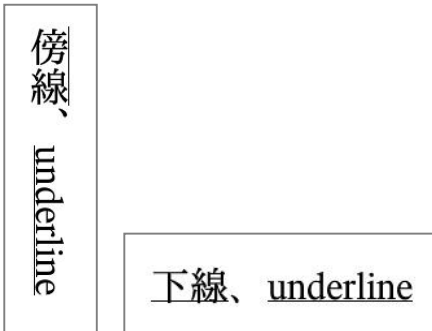
(縦書き時の例)

```
<span class="overline">傍線</span>、 <span class="underline">underline</span>
```

(横書き時の例)

```
<span class="underline">下線</span>、 <span class="underline">underline</span>
```

【サンプル画面イメージ】



5.8. 上付き／下付き

下付き／上付きは、通常、親文字の後に用いるが、例外的に化学方程式などでは親文字の前に表示することがある。下付き／上付きには、

HTML タグ sup、sub を用いるか、以下のスタイルを用いる。

スタイル

```
.sup {  
  font-size:50%;  
  vertical-align:super;  
}  
.sub {  
  font-size:50%;  
  vertical-align:sub;  
}
```

HTML

(縦書き時の例)

```
県民一人当たりの消費量<span class="sup"> (注) </span>は、日本一である。 <br />
```

(横書き時の例)

```
H<span class="sub">2</span>O<br />  
10<span class="sup">3</span>
```

【サンプル画面イメージ】



5.9. 縦中横

縦中横は、CSS プロパティ"-webkit-text-orientation:vertical"あるいは"-webkit-writing-mode:vertical-rl;"で表現する。

現状では、"-webkit-text-

orientation:vertical"を使った場合、縦中横を指定した文字列の幅が 1.9em（目安として 3 桁の半角数字）を超えた場合には縦中横にはならない。

原則としては"-webkit-text-orientation:vertical"を使うが、4 桁以上等の場合には、"-webkit-writing-mode:vertical-rl;"を使ってもよい。

縦中横を使用した場合にも、行送りは自動では広がらないので、3 桁以上の縦中横を適用する場合には、"line-height"の指定を使った行間広めの指定を推奨する。

【例】

スタイル

```
.tcy {  
  -webkit-text-orientation: vertical;  
}
```

HTML

```
5月<span class="tcy">15</span>日。<span class="tcy">120</span>項目。タイプ<span  
class="tcy">(A)</span>の場合
```

【サンプル画面イメージ】

5
月
15
日。
120
項目。
タイ
プ
(A)
の
場
合

6. 図版／表

6.1. 画像の挿入

インライン画像は、CSS プロパティ"display:inline"と img 要素により指定する。インライン画像は、本文の組方向に沿って表示される。インライン画像がある行に収まらない場合には、縦書きでも横書きでも次の行に表示される。縦書きの場合にも、画像の天地は回転しない。

【例】

スタイル

```
img.inline {  
  display:inline;  
  margin: auto;  
  height: auto;  
  width: 1em;  
}
```

HTML

```
法水は無雑作に云い放って、全体がの形をしている黙示図を指し示した。
```

(小栗虫太郎「黒死館殺人事件」より)

【サンプル画面イメージ】

法水は無雑作に云い放って、全体がの形をしている黙示図を指し示した。

非インライン画像は、CSS プロパティ "display: block" で指定する。ブロック画像は、独自のブロック要素として別の行に表示されるため、縦書きでも横書きでも、本文の文字フローは回り込まない。

【例】

スタイル


```
img.block {  
  display: block;  
  height: auto;  
  width: auto;  
}
```


HTML

```
<p>  
ある雨あがりの晩に車に乗って、京都の町を通ったら、暫くして車夫が「どこへつけます」とか、「どこへつけやります」とか、何  
とか云った。  
</p>  
  
<p>  
どこへつけるって、「宿へつけるのにきまっているから、宿だよ、宿だよ」と桐油の後から、二度ばかり声をかけた。車夫はその御宿  
がわかりませんと云って、往来のまん中に立ち止まった儘、動かない。  
</p>
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【サンプル画面イメージ】

<p>ある雨あがりの晩に車に乗って、京都の町を通ったら、暫くして車夫が「どこへつけます」とか、「どこへつけやります」とか、何とか云った。</p>		<p>どこへつけるって、「宿へつけるのにきまっているから、宿だよ、宿だよ」と桐油の後から、二度ばかり声をかけた。車夫はその御宿がわかりませんと云って、往来のまん中に立ち止まった儘、動かない。</p>
--	---	---

6.2. 画像へのテキスト回り込み

画像を配置し、その画像に対してテキストを回り込ませたい場合には、CSS プロパティの"float"を用いる。

回り込みを解除する場合には、続くブロックに、CSS プロパティの"clear"を用いる。

【例】

スタイル

```
.floatTop {  
  float:left;  
  padding-top:0;  
  padding-left:0.5em;  
  padding-right:0.5em;  
  padding-bottom:0.5em;  
  text-align: center;  
  display:inline;  
}
```

HTML

```
<p>  
  
或雨あがりの晩に車に乗って、京都の町を通ったら、暫くして車夫が、どこへつけますとか、 ...  
</p>
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【サンプル画面イメージ】



The screenshot shows a page with a vertical column of text on the left and a small image of bamboo on the right. The text is written in vertical Japanese characters. At the bottom left, it says 'Loc 94' and at the bottom right, it says '47%'.

フロート画像に対してキャプションをつけたい場合には、以下のようにする。

【例】

スタイル

```
.floatBottom {  
  float:right;  
  padding-top:0.5em;  
  padding-left:0.5em;  
  padding-right:0.5em;  
  padding-bottom:0;  
  text-align: center;  
  display:inline;  
}  
.horizontal {  
  -webkit-writing-mode:horizontal-tb;  
}
```

HTML

```
<p class="floatBottom"><span class="caption">建仁寺</span></p>  
困ったなと思っていると、車夫が桐油を外してこの辺じゃおへんかと云う。提灯の明りで見ると、車の前には竹藪があった。
```

(芥川龍之介「京都日記」より)

【サンプル画面イメージ】

困ったなと思っていると、車夫が桐油を外してこの辺じゃおへんかと云う。提灯の明りで見ると、車の前には竹藪があった。それが暗の中に万竿の青をつらねて、重なり合った葉が寒そうに濡れて光っている。自分は大へんな所へ来たと思つたから、こんな田舎じゃないよ、横町を二つばかり曲ると、四条の大橋へ出る所なんだと説明した。すると車夫が呆れた顔をして、ここも四条の近所どすがなと云つた。そこでへええ、そうかね、じゃもう少し賑かな方へ行つて見てくれ、そうしたら分るだらうと、まあ一時を糊塗して置いた。所がその儘、車が動き出して、まっきの横丁を左へ曲つたと思つと、突然歌舞練場の前へ出てしまつ



建仁寺

Loc 103 51%

6.3. 表

表組みは、書籍内で表形式のデータを表示する上で効果的である。

表を指定するためには、標準的な HTML 要素 table、tr、th、td を使用することができる。表の組方向は、対象要素の組方向によって自動的に調整される。

表の組方向を変更するためには CSS プロパティ"-webkit-writing-mode"を用いて指定することも可能であるが、ページからはみだした場合の表示が保証されないので推奨しない。(Kindle アプリケーションで「表」の全体表示を行なう機能は用意されている)

【例】

スタイル

```
.TableClass {
  border-collapse: collapse;
  border-style: solid;
  border-width: 1px;
}
.THClass {
  border-style: solid;
  border-width: 1px;
  border-color: #808080;
  background-color: #dedede;
  font-weight: bold;
  font-size: 80%;
  padding:0.2em;
}
.TDClass {
  border-style: solid;
  border-width: 1px;
  border-color: #808080;
  font-size: 80%;
  padding:0.2em
}
```

HTML

横組みの本文中で使用した表の例

```
<table class="TableClass">
  <tr><th class="THClass">コマンド</th><th class="THClass">意味</th></tr>
  <tr><td class="TDClass">cd</td><td class="TDClass">ディレクトリを移動</td></tr>
  <tr><td class="TDClass">chmod</td><td class="TDClass">パーミッション変更</td></tr>
  <tr><td class="TDClass">cp</td><td class="TDClass">コピー</td></tr>
  <tr><td class="TDClass">mkdir</td><td class="TDClass">ディレクトリ作成</td></tr>
</table>
```

【サンプル画面イメージ】

コマンド	意味
cd	ディレクトリを移動
chmod	パーミッション変更
cp	コピー
mkdir	ディレクトリ作成

縦組の本文中で使用した表の例

```
<table class="TableClass">
<tr><th class="THClass">名前</th><th class="THClass">代表作</th></tr>
<tr><td class="TDClass">芥川龍之介</td><td class="TDClass">羅生門</td></tr>
<tr><td class="TDClass">菊池寛</td><td class="TDClass">父帰る</td></tr>
<tr><td class="TDClass">夏目漱石</td><td class="TDClass">我輩は猫である</td></tr>
</table>
```

【サンプル画面イメージ】

夏目漱石	菊池寛	芥川龍之介	名前	表の挿入
我輩は猫である	父帰る	羅生門	代表作	

7. ハイパーリンク

HTML の a href を用いたリンク機能を使用することができる。

7.1. 文字列へのリンク

書籍内（同一コンテンツ内）でのリンクは、リンク先の id に対して、href でリンクを貼る。

同一コンテンツであっても、HTML としてファイルが分割されている場合には、そのファイル名とともに指定する。

display:none を指定している要素の id を、リンク先に指定することは推奨しない。

特に、NCX からのリンクには、display:none が指定された要素の id をリンク先に設定してはならない。

リンク色は、CSS プロパティの"a:link"、"a:visited"、"a:active"によって指定することができるが、グレースケール

電子インク表示方式の Kindle 電子書籍デバイスでの可読性を考慮し、傍線をつけることを推奨する。

【例】

スタイル

```
a:link {
  color: #3300ff;
  text-decoration: overline;
}
```

HTML

(リンク元)

```
<a href="kf_jp_sample_0006.xhtml#chu1"> (注) </a>
```

(リンク先)

```
<p id="chu1">総務省 統計局『家計調査』による</p>
```

7.2. 画像を使ったリンク

画像に対しても href を使いリンク元とすることができる。

この場合には、傍線等はつけない。

【例】

スタイル

```
a:imglink {
  text-decoration: none;
}
```

HTML

```
<a href="#chapt2"></a>
```

クリックブルマップは使用することができない。

8. 表紙、目次、奥付

「表紙」「目次」「奥付」という言葉は、書籍としての構造を示すものであるが、電子書籍の場合には、

- ・電子書籍の機能
- ・コンテンツの内容としての各ページ

の2つの場面で使われることがある。

ここでは、それぞれを分けて説明する。

8.1. 表紙

Kindle フォーマットではカバー画像として JPEG の画像を用意し、そのファイルをメタデータ (OPF ファイル) の中で、metadata meta 要素と manifest item 要素で定義する。

metadata name="cover"の content の値と manifest item id の値は同じにしなければならない。

(本ガイド「2.1.基本構造」および「パブリッシングガイド」参照)

【OPF での指定例】

```
<metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">
  <meta name="cover" content="my-cover-image" />
</metadata>
<manifest>
  <item id="my-cover-image" href="images/cover.jpg" media-type="image/jpeg" />
</manifest>
```

この画像は、先頭ページ (spine の第一要素) に定義されない場合でも、カバーとして表示される。

カバー画像と同一の画像を、先頭ページに指定した場合には、そのページの表示はスキップされる。例えば、上記の OPF の例の「images/cover.jpg」という画像を、先頭ページ (spine の第一要素) の XHTML 内で使用した場合、そのページは表示されない。

先頭ページで、カバー画像と同一の画像を表示させたい場合には、ファイル名を変更する必要がある。(上記の OPF の例では、例えば「images/cover_t.jpg」等)

8.2. 目次

電子書籍の機能としての「目次」は「ナビゲーション文書」を指す。Kindle フォーマットでは、NCX 形式のドキュメントであり、Kindle Format では必須である

コンテンツ内容としての「目次」は、各章へのリンクを含む目次ページである。

(詳細は、パブリッシングガイド 「3.3 目次ガイドライン」参照)

各章へのリンクは href を使用する (「7. ハイパーリンク」参照)。

目次ページでは、本文とは字下げや行間を変更したい場合には、以下のようにする。

【例】

スタイル

```
h2.toc_chapter {
  font-family: serif;
  font-size:120%;
  font-weight:bold;
  letter-spacing:1em;
  padding-top:2em;
  margin-right:1em;
  margin-left:1em;
}
div.toc_text {
  padding-top:2em;
}
```

HTML

```
<body>
<div class="toc_text">
<h2 class="toc_chapter">目次</h2>
<p><a href="kf_jp_sample_0004.xhtml#mark01">光悦寺</a></p>
<p><a href="kf_jp_sample_0004.xhtml#mark02">竹</a></p>
<p><a href="kf_jp_sample_0004.xhtml#mark03">舞妓</a></p>
<p><a href="kf_jp_sample_0007.xhtml">奥付</a></p>
</div>
</body>
```

【サンプル画面イメージ】



8.3. 奥付

電子書籍の機能としての「奥付」は特に用意されていない。

コンテンツ内容としての「奥付」は、本文とは別の組み方で表現することもできる。

【例】

```
body.colophone {
  -epub-writing-mode:horizontal-tb;
  -webkit-writing-mode:horizontal-tb;
  text-align:center;
}
h2.invisible {
  display:none; /* display:none を適用した要素へのネームアンカー設定は非推奨 */
}
p.title_h {
  font-family: serif;
  font-size:140%;
  letter-spacing:2px;
  font-weight:bold;
}
p.author_h {
  font-family: serif;
  font-size:100%;
}
hr.line {
  border-style: solid;
  border-width: 1px;
  border-color: #808080;
  width:60%;
}
```

HTML

```
<body class="colophone">
<h2 class="invisible">奥付</h2>
<p class="title_h">京都日記</p>
<p class="author_h">芥川龍之介</p>
<hr class="line" />
<p class="small">2012年4月2日 発行</p>
<p class="small">発行所 : ○○○○○○○○</p>
</body>
```

【サンプル画面イメージ】

京都日記

芥川龍之介

2012年4月2日 発行

発行所：〇〇〇〇〇〇〇〇